

I 県民くらし相談センター

【調査目的】

県民くらし相談センター新設施設の現状について

【調査概要】

県民くらし相談センターの概要について説明を受け、施設を見学。

○県民くらし相談センターの概要

- ・奈良県県民くらし相談センターは、消費生活、男女共同参画、ひとり親家庭、外国人、LGBTQ に関する相談や、啓発・情報発信を行う施設。
- ・消費者安全法に基づく消費生活センター、および男女共同参画社会基本法に基づく男女共同参画センターとしての機能も有している。
- ・令和8年4月、消費生活センター、女性センター、スマイルセンター、外国人支援センターの4機関を移転・集約して開設した。都道府県では初めての事例となる。
- ・近鉄奈良駅直結のビルに入居し、相談窓口のほか、講座室や啓発交流スペースを設置している。
- ・職員は47名で、大和高田市の市民交流センター内に出張所を設け、奈良県南部・中部地域向けの消費生活相談窓口も設けている。

【運営件数・啓発活動等】

- ・相談は、消費生活、女性、ひとり親家庭、外国人、男性、LGBTQ の各分野に対応し、必要に応じて窓口間で連携している。
- ・4月から7月末までの相談件数は2,542件。内訳は次のとおり。
消費生活相談：1,730件、女性相談：553件、ひとり親家庭等相談：175件、外国人相談：60件、男性相談：23件、LGBTQ 相談：1件
- ・前年度同時期の2,971件と比べ、相談件数は約86%。移転や休所日の変更、移転期間中の電話不通などが減少の要因と考えられている。
- ・窓口を集約したことで、離婚・養育費や外国人の消費生活トラブルなど、複数分野にまたがる相談に、相談員が連携して対応できるようになった。
- ・啓発活動として、消費者教育講座、男女共同参画セミナー、外国人向け交流イベント、資料配布、広報などを実施している。

○質疑応答

委員からは以下について、質問があった。

- ・ 女性相談の件数現状について
- ・ 窓口を集約した効果について
- ・ 消費生活相談の傾向について



2 県立郡山高等学校

【調査目的】

県立郡山高等学校の施設の現状について

【調査概要】

施設の概要について説明を受け、施設を見学。

○トイレ改修計画の概要

- ・ 県立高校のトイレ改修計画は、令和 6 年度から令和 10 年度までの 5 年間で、トイレの洋式化・乾式化を進めるもの。令和 7 年度には郡山高校を含む 8 校で工事を開始した。
- ・ 郡山高校では、学校運営への影響を抑えるため、工事を 1 期・2 期に分けて実施し、仮設トイレも設置した。工事中は、騒音や振動、粉じんの抑制、生徒・教職員の安全確保に配慮し、学校と業者が協力して進めた。
- ・ 1 期工事は 2 月に完了、2 期工事も概ね完了し、検査後に使用開始できる見込み。工事による授業への大きな支障や苦情はなく、業者や警備員の協力も高く評価できる。
- ・ 保護者アンケートでは、施設・設備や校内環境の整備に対する肯定的な回答が、昨年度より大きく増加した。今後も、令和 10 年度までの計画達成に向けて工事を進めていく方針である。

○質疑応答

特になし



3 県立教育研究所

【調査目的】

不登校支援などの取組状況について

【調査概要】

不登校支援の概要について説明を受けこころキャンパスの体験をし、施設を見学。

○フリースクール事業の概要

- ・奈良県教育委員会が、不登校児童生徒への学習機会と居場所を提供するために実施。
- ・県内の公立小・中学校、義務教育学校のうち、学校や教育支援センターなどの支援機関につながっていない児童生徒が主な対象。
- ・令和7年度から「奈良県公設フリースクール奈良コネクト」を開校。令和5年6月から実施したオンライン支援「不登校支援ナラネット」の成果を引き継いでいる。
- ・メタバースを活用した「こころキャンパス」を中心に、学習支援、居場所の提供、教育相談、心理支援、保護者支援、在籍校へのコンサルテーションを一体的に実施。
- ・担任や心理職が活動状況を記録・評価し、学校や市町村教育委員会と連携して支援。
- ・授業参加やデジタルドリルの利用記録は、在籍校などに提供し、出席扱いの可否は学校が判断。
- ・チラシの配布、説明会、個別相談会などを通じて、児童生徒や保護者への周知を実施。
- ・令和7年度は46名が利用。学校復帰につながった例がある一方、参加頻度や利用状況は児童生徒によって異なる。

○こころキャンパスの機能

- ・自宅のパソコンから、児童生徒がアバターで参加できるメタバース空間。
- ・小学部と中学部でフロアを分け、それぞれの発達段階や学習内容に対応。
- ・出入りや活動への参加は自由で、児童生徒が自分のペースで利用できる。
- ・カメラやマイクのオン・オフを任意に設定でき、心理的な負担を軽減。
- ・アバター同士が近づくことで会話を始められる。

(主な機能)

ライブ授業、個別ルーム、会議室、しゃべり場、デジタルドリル、チャット、掲示板、ステータス・つぶやき機能

○質疑応答

委員からは以下について、質問があった。

- ・出席扱いについて
- ・利用者数について
- ・授業の時間帯について
- ・対象となる児童生徒について
- ・対象者数について
- ・広報について
- ・保護者同士のつながりについて
- ・利用後の変化について

